

地域における生活構造の変化の研究

—— 富 山 村 ——

加 藤 恵 子

Studies on the Changing Life Structure in a Community

Tomiyama Village

Keiko KATŌ

諸 言

昭和30年後半の高度経済成長にみられた急激な発展と異なって、量から質への生活の転換が志向されつつあるなかで、家庭生活をとらえる場合、全国を産業別、あるいは平均的なデータでのべられているのは多くみられるが、特定地域を対象に調査されたものは少ない。そこで本研究は愛知県の屋根といわれる僻地を対象に生活意識、生活構造の変化について分析し、あわせて今後の方向を展望することを目的として行なった。

調 査 方 法

- I. 昭和53年5月中旬 / 愛知県北設楽郡富山村にて、配布先及び地域の概況調査。
- II. 昭和53年8月8日 / 各家庭に質問用紙を郵送。8月15日～17日の三日間各家庭を訪問。調査用紙の回収および聞きとり調査。
- III. 調査内容 / 主婦を対象に家庭生活における衣、食、住など54質問項目を設定。
- IV. 調査用紙配布数 / 全村の83世帯。
その内訳は無効4、返送2、転勤2、独身者5、留守その他9、有効回答61、有効回答率73.49%。

結果および考察

I. 概 況

富山村は岐阜県、長野県、静岡県に接した愛知県の最北端の面積35平方キロの過疎地域で、表1に示すように人口1,000人以下の市町村のうち、御蔵島村、青ヶ島村について第3位で、内陸では最も小さい村である。

国鉄豊橋駅より飯田線に乗り所要時間は、普通列車で2時間27分、急行列車で1時間53分である。午前中に普通列車4本、午後4本が停車するが通勤、通学帯がおもて買物などには不便である。富山村に入るにはまず、静岡県水窪町大嵐駅に下車し、佐久間ダムの湖水にかかっている鷹の巣橋を渡ると富山村である。一方はダム湖、他方は急峻な傾斜地で表2に示すように急傾斜地が82.9%をしめる地域である。

愛知県全図

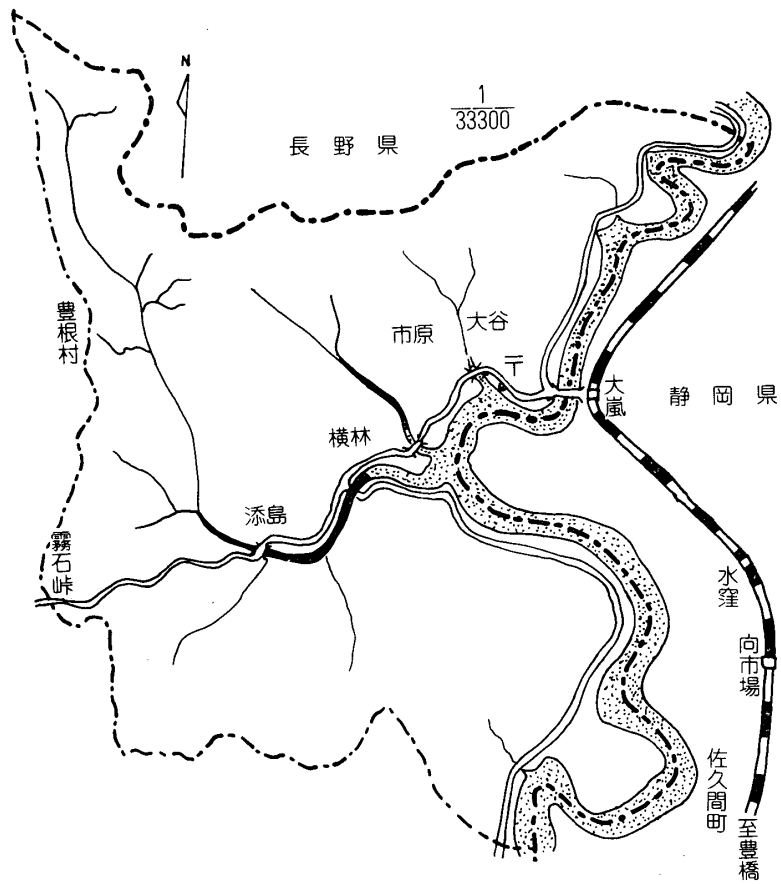
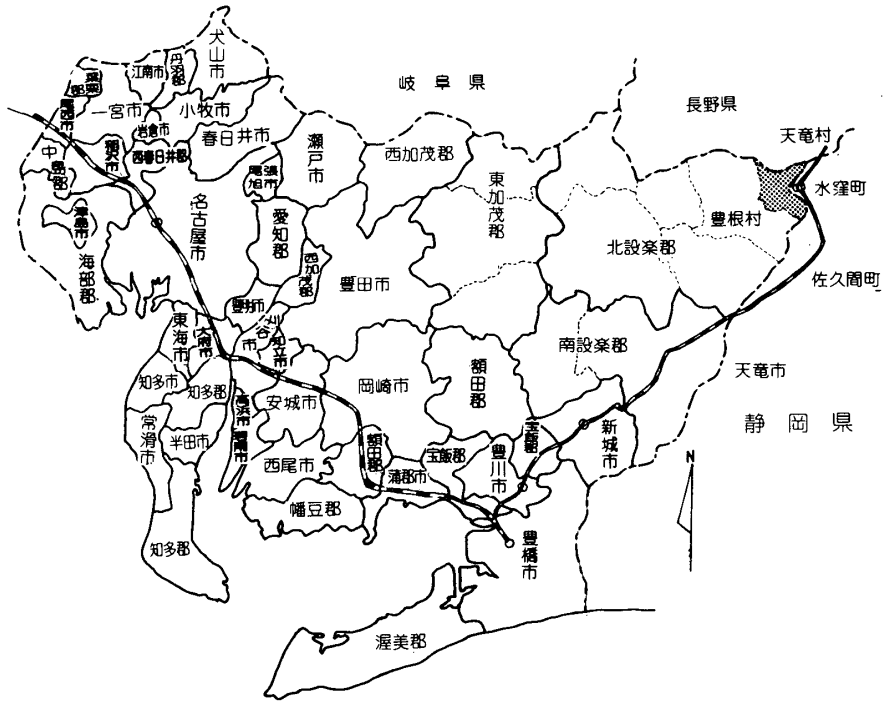


表 1 町村別総人口（沖縄県を除く） 50年10月1日調査

町村名	都府県名	郡名	昭和50年人口	昭和50年世帯数	一世帯当り人口	備考
御蔵島村	東京	三宅	177 ^人	94	1.9 ^人	島しょ
青ヶ島村	東京	八丈	205	78	2.6	〃
富山村 [※]	愛知	北設楽	253	83	3.0	内陸
利島村	東京	大島	274	115	2.4	島しょ
別子山村	愛媛	宇摩	403	166	2.4	内陸
藤橋村	岐阜	揖斐	575	232	2.5	〃
魚島村	愛媛	越智	604	213	2.8	島しょ
三島村	鹿児島	鹿児島	628	235	2.7	内陸
粟島浦村	新潟	岩般	674	153	4.4	〃
芦安村	山梨	中巨摩	699	178	3.9	〃
布施村	島根	隠岐	706	242	2.9	島しょ
平谷村	長野	下伊奈	732	253	2.9	内陸
浪合村	長野	下伊奈	801	258	3.1	〃
檜枝岐村	福島	南会津	827	228	3.6	〃
阿波村	岡山	苫田	850	229	3.7	〃
花園村	和歌山	伊都	877	277	3.2	〃
売木村	長野	下伊奈	953	285	3.3	〃

※ 53年8月調査、愛知県企画部統計課、総理府統計局。

表2 起伏別山地と急傾斜地比率

単位＝%

起伏別にみた山地の比				急傾斜地 比率30°以上
大起伏山地	中起伏山地	小起伏山地	山地計	
94.3	0	5.7	100.0	82.9

出所、天竜奥三河地域総合調査報告より

木々の間にしいたけ栽培がされ、家のまわりには、お茶の木や桑が植えられている。駅から約10分の所に村役場があり、隣りに駐在所、前に郵便局、集会所などが集中し、全村の半径6km以内に約84%の世帯が居住している。

明治以前より居住している家は15戸で、そのうち最も古い家は650年前といわれている。人口が最も多かったのは大正10年の323世帯、1,496人でその後人口の増加はなく、減少の一途である。表3に示すように18年間で401人減少している。

表3 年代別人口世帯数と1戸当り平均人数

年	人口	世帯数	1戸当り平均人数
昭和35年	654 ^人	134 ^人	4.9 ^人
昭和40年	520	108	4.8
昭和45年	349	94	3.7
昭和50年	294	84	3.5
昭和53年	253	83	3.0

出所、愛知県統計年鑑より

昭和29年より佐久間ダム建設で河内、佐太、山中の三部落が水没し、現在は西方地域から集落は漆島、久原、横林、市原、大谷、中の甲の順、漆原、久原、横林をのぞき、どの家も南斜面に立ち佐久間ダムの取水を満々と満

たした水面を、朝夕ともにみながらの生活である。この水は更に奥深く平岡ダムまで続いている。

表4 月別最高、最低、平均気温の富山村と名古屋の比較

単位=度

気温		地区別		月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
最高気温	富山村	21.5	19.5	26.9	31.0	27.8	29.8	33.3	32.8	32.0	23.0	22.0	17.9		
	名古屋	16.7	13.0	18.0	24.0	31.2	32.0	35.8	37.8	34.1	28.6	24.1	17.4		
最低気温	富山村	-5.0	-4.0	-2.0	-1.0	10.1	10.0	18.2	20.8	14.8	8.8	2.0	-1.6		
	名古屋	-2.9	-4.9	-1.8	1.4	8.6	11.0	20.6	20.6	16.7	7.7	1.9	-2.1		
月平均気温	富山村	4.4	4.6	6.8	13.1	17.2	19.6	23.5	24.6	22.1	14.9	9.6	5.3		
	名古屋	2.7	2.8	7.3	13.0	18.7	22.9	27.7	28.1	23.5	17.3	13.4	7.6		

富山村役場調査，名古屋気象台調査

気候は表4に示すように、7月の33.3度が最も高く、1月の-5.0度が最低である。名古屋に比べ2月は富山村の方が最低、最高、月平均ともに高く、積雪量も30cmと根雪になることもなく、温暖多湿である。

小・中学校は村内にあり、昭和52年は小学校複式3学級、教員6人で男子11人、女子9人の計20人である。中学校は単式1、複式1学級で教員9人、男6人女9人の計15人の児童数である。最も遠い人で8kmあり、朝はバスで通い、帰校時は徒歩である。保育園は小学校に併設されていた。高校は平岡又は東栄町まで通学圏内にあり、それぞれ家庭から通学している。

昭和49年に豊根村に通ずる県道が開通し、愛知県への木材の運搬や交通にも便利になったが、それまでは同じ県内にありながら遠まわりして入村していた。

村内には理髪屋、美容院、クリーニング店、公衆浴場、喫茶店、娯楽施設など一軒もなく、高校生は帰校時に理髪に行ったり、小・中学生は水窪町などに土曜日、日曜日に出掛けるのを楽しみにしている。

以上のような地区における家庭生活の実態調査と、聞きとり調査を行なった。

II. 家族構成・主婦の職業

1) 家族構成と主婦の年代別割合及び職業

表5に示すように、全国平均との違いは核家族のうち、夫婦と子が約20%少ない。これは子どもが社会人になってから家族と共に生活出来ないことを意味している。すなわち村外へ働きに出る場合が多い。単身者についてみると、今回は女性（主婦）を調査対象にしたので、ここにいう単身者は女ひとりで生活していることを指す。全国平均と比べると、約倍の率が在村していることがわかった。

表5 家族構成

単位=%

構 成		富山村	全国平均
核家族	夫婦	14.8	12.5
	夫婦+子	22.9	45.7
	片親+子	4.9	5.7
	単身者	24.6	13.9
拡大家族	親+夫婦+子	26.2	22.2
	親+夫婦+子+他	6.6	

富山村…実態調査の割合。
全 国…昭和50年国勢調査。

1戸の最大家族数は7人で、1戸当り3.0人である。最長老は明治23年生れの男子、女子は明治28年生まれであった。

主婦として、家計の遣り繰り、家事の切盛りをしている人達の割合を表6に示した。これは生まれた年月日をもとに区分した。明治生まれの人々、年令として75~65歳が9.8%みられるが、

そのうち67%が単身者であった。年代区分する場合右端の表示方法に以下従う。

2) 通 婚 圏

明治、大正時代は陸の孤島といわれた地域でどのような通婚圏を有していたか年代別にみると、表7のようである。村内が全体では約56%をしめ、ついで平岡町水窪町の順で、遠く東京の人も明治にみられるが、これは夫が富山村出身者で東京で所帯をもち、村にもどってきたという例がみられるが、そのような例は少ない。出生時代別にみると、村内どおしの婚姻が明治に最も多く、大正、昭和と年代が若くなるに従い各地区からの通婚圏がみられるようになり、村内の結婚の割合が少なくなっている。

3) 主婦の職業

主婦の職業についてみると表8のように主婦のみで他に仕事をもっていないのは全体の4強で、他は何らかの形で収入を得ている。

専業の職についているのは17%みられる。副業としているのは林業、農業、山林労務で収入を得ているが山林労務は男性と同じ労働に従事しながら賃金はやや低いといわれている。理由は地域に密着した仕事であること、又他産業がないことなどのためである。

Ⅲ. 食生活構造

1) 作物・調味料の自給状況

表9、10にみられるように、1戸当たりの耕地面積は少なく、山の斜面で日当たりがよく、耕せる所は何らかの物が作られている。そこで自給作物についてみると図2のように作っているのは85.2%と高率であった。そこでその品種についてみると38種類で1戸当り最多25種、最少3種で表11に示すように、ばれいしょ、なす、さといも、きゅうり、白菜など半数以上の家庭で作られている。そこで家族構成別にその充足度をみると、表12に示すように夫婦2人は「総て充足」が半数以上ある。単身者をみると約4分の1の人は作っていない。これは他の家族構成と比べると高率であ

表6 主婦の生年月日別割合と表示方法

区 分	年 齢	%	表示方法
明 治	75～65	9.8	明 治
大 正	65～51	34.4	大 正
昭和1～15年	51～37	41.0	昭和Ⅰ
昭和16～30年	37～22	14.8	昭和Ⅱ

表7 出生地区別・時代別割合

単位=%

地 区	割合	明治	大正	昭和Ⅰ	昭和Ⅱ
富 山	55.8	66.6	58.8	53.4	49.4
平 岡	11.9	—	5.9	16.6	16.7
水 窪	9.9	—	5.9	13.3	16.7
豊 根	6.5	—	—	13.3	—
天 竜	4.9	16.7	5.9	—	16.7
長 野	4.9	—	23.5	—	—
豊 橋	3.3	—	—	—	—
東京他	1.6	16.7	—	—	—
不 明	1.6	—	—	3.4	—

表8 主婦の職業

種 別	専 業	副 業
主 婦	27.1	0
公務員・会社員	3.4	1.7
林 業・農 業	11.9	37.2
山 林 労 務	—	8.5
用務員・給食婦	—	3.4
商 業	1.7	5.1
計	44.1	55.9

表9 畑の経営耕地面積および戸数

昭和50年2月調

面 積	戸 数
0.05～0.1 ^{ha}	4 ^戸
0.1～0.3	19
0.3～0.5	13
0.5～0.7	3
0.7～1.0	1
計	40

出所1975、農業センサス

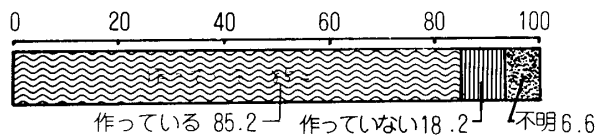


図2 自給作物の状況の割合

表10 種類別経営耕地別面積および戸数
昭和50年2月調

種類	面積	戸数
田	20 ^{アール}	1 ^戸
果樹園	81	10
茶園	210	31
桑園	290	17
畑	457	40

出所1975, 農業センサス

表11 自給作物種類および割合

種類	%	種類	%	種類	%	種類	%
馬れいしょ	69.2	小豆	25.0	こんにゃくいも	5.8	米	1.9
なす	69.2	ごぼう	23.1	きび	5.8	柿	1.9
里芋	67.3	ほうれん草	21.2	大麦	5.8	栗	1.9
きゅうり	67.3	キャベツ	15.4	うり	5.8	桃	1.9
白菜	53.8	ささげ	13.5	えんどう豆	3.8	すいか	1.9
とうもろこし	51.9	かぼちゃ	11.5	みょうが	3.8	らっきょ	1.9
葱	44.2	小麦	11.5	みかん	3.8	竹の子	1.9
玉葱	40.3	生姜	11.5	落花生	3.8	山椒	1.9
大豆	36.5	にんにく	7.7	しいたけ	3.8	レタス	1.9
人参	34.6	ブコリー	5.8				

表12 家族構成別自給作物の充足率

単位=%

	全て充足	½充足	¼充足	作っていない
夫婦	55.6	11.1	22.1	11.1
夫婦と子	28.6	35.7	14.3	21.4
片親と子	—	100.	—	—
単身者	26.7	26.7	19.9	26.7
親+夫婦+子	25.0	50.0	25.0	—
親+夫婦+子+他	25.0	50.0	12.5	12.5
%	29.5	37.7	16.4	16.4

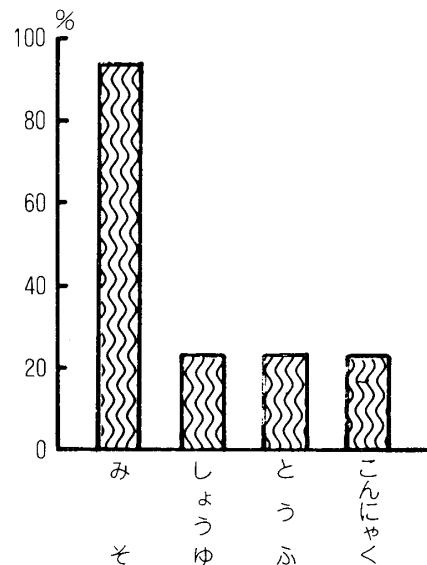


図3 調味料の自給率

る。山が急斜面で女手一人では危険がともなうので低率でないかと考えられる。

調味料の自給率をみると31.1%の家庭が作っており、その内訳を図3に示した。味噌が最も多く次いで醤油、豆腐、こんにゃくなどで平均1戸当り1.8種作っている。豆腐は昭

和30年頃までほとんどの家庭で作られていた。

2) 燃 料

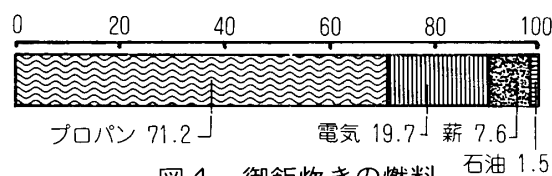
一般に過疎の原因として燃料の革命が挙げられる¹⁾が富山村では燃料についてみると、プロパンガスが村内に普及したのは昭和40年頃である。

表13 順位別使用燃料の割合

単位=%

順位	薪	炭	石 油	プロパンガス	電 気	太陽温水器	石 炭	豆 炭
1	6.8			79.6	13.6			
2	32.8	3.4	13.8	13.8	34.5	1.7		
3	25.5	25.5	27.7		21.3			
	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
種類別使用率	65.0	41.7	50.0	93.3	71.7	1.7	1.7	1.7

使用燃料の多い順に番号をつけ、その上位3位までを表13に示した。プロパンガスが最も多く使われ、ついで電気又は薪であった。1戸当り平均3.3種使用している。



ご飯の燃料についてみると図4のように表

13と同じ傾向がみられた。薪で炊いている7.6%のうち、3.04%はプロパンガスを全く使用していない家庭であった。ダムの出来るまでは川で木を拾い、それを家に運び上げ燃料としていたといわれるが、今日では拾う人もなく平岡から月一回の割合で全村にプロパンガスの詰替にまわってくるので、燃料には困まらない状態である。

3) インスタント食品

食料品類の販売は一軒しかなく、日常の食事の用意には苦心がはらわれると思う。そこでインスタント食品についてみると75.4%の家庭は使用しており、そのうち1戸当り使用数を見ると1～2種が30.5%、3～4種が39.1%、5～6種が23.9%、7～8種が6.5%で3～4種が最も多い。平均1戸当りの使用は3.9種であった。その食品別の使用頻度を表14に示した。

表14 インスタント食品の使用頻度

単位=%

かん詰 ビン詰	冷凍加 工食品	即席麵 乾麵類	インスタントコ ーヒ・ミルク類	即席カレー・ ハヤシ類	スープの素 だしの素類	ハンバーグ
82.6	80.6	76.0	69.6	34.7	28.2	15.2

その使用頻度の高い順から4位までを図5に示した。即席麵は上位1・2位で約70%の家庭が使用している。山間部でスープの素などの利用が多いかと考えられたが、利用しているのは約28%で、その内訳をみると、使用量の1位は30.8%、2位15.4%、3位30.8%で約3/5は1～3位にあげている。使用する家庭と非使用の家庭が明瞭な食品と考えられる。

4) 献 立

家庭の経済、家族の健康の面から食事に対する配慮は、主婦として大切な役割である。そ

ここで、まず献立を立てているのは、わずか8.2%であった。そのうち昭和Iの層が80%をしめている。その献立も3日単位であった。

5) 外 食

村内には食堂、喫茶店が一軒もなく、子供たちは理髪屋に行った帰りにアイスクリームなどクリーム類の菓子を食べることを楽しみにしているといわれる。そこで近年外食産業の伸びがめざましい今日、富山村ではどうかと考え、1ヶ月の間に外食した家庭についてみると、27.9%である。その家族状況、場所、種類、回数について図6に示した。

食事をした場所は半径60km以内が90%であった。平均2.7回であるが多い人は5回以上みられた。これは公職で外出する機会が多いためである。

IV. 住生活構造

1) 入村，持家率

明治以前から在村している人々は24.4%、明治、大正期は33.3%と約半数以上は入村していた。表15に示すように、持家が90%をしめ他は借家、給与住宅、公営住宅の人達で入村時は昭和7年～昭和45年の間にみられる。職業は林業労務、公務員が各50%である。

2) 暖房器具の使用

表4に示したように冬は名古屋地方とほぼ寒さは変わらないことが分かった。そこで暖房器具の使用についてみると図8のように電気こたつが最も多く、ついで石油ストーブであった。一戸当たり平均2.2種使用されている。

3) 家屋の修理・改築

新築した家でも10年位経過した頃から改修の必要が生じるといわれる。過去10年間にどの位改修・改築されたかをみると、36%の家が改修工事を行っていた。その内容は図8に示した。昭和44年以降48年までは11%、昭和49年以降53年までは89%手が加えられ、8倍の伸びを示した。最も率の高いサッシュをみると昭和49年以降に91%の家庭が修理している、これは気密性があり、冬の暖房には

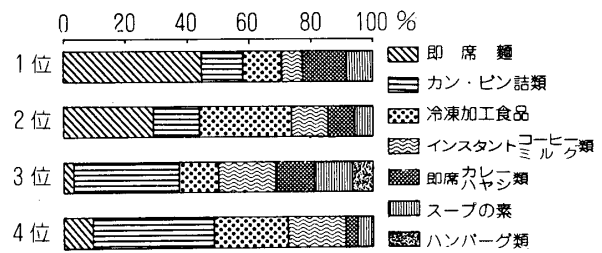


図5 インスタント食品 順位別割合

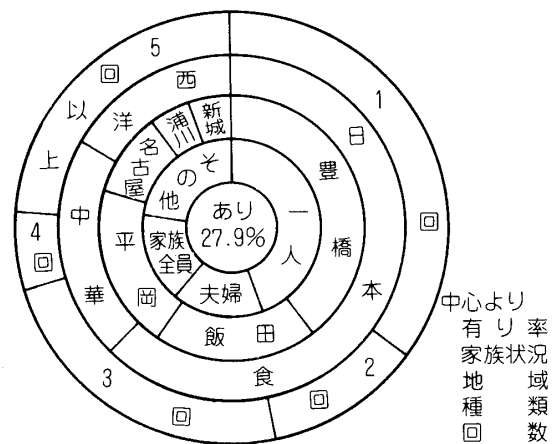


図6 外食状況

表15 持家率

種類	持家	借家	給与	公営	不明
%	90.2	3.3	1.6	1.6	3.3

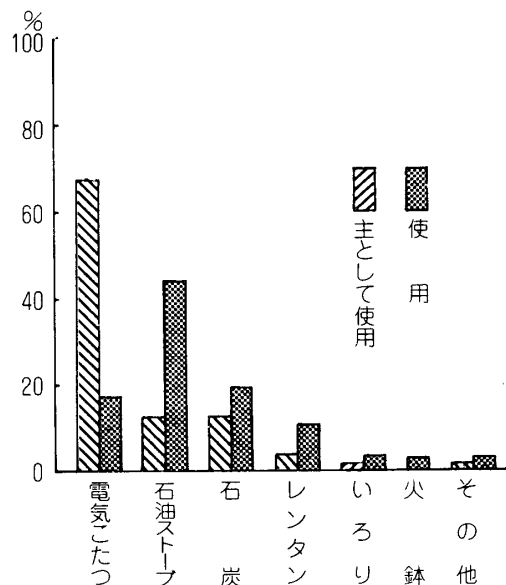


図7 暖房器具の使用率

利点であり、今後も改修が増加するものと思われる。

4) 転居について

今まで転居についての話しの有無をみると、75%は話していない。16.4%は転居について話しがみられる。その内容について、表16に示した。

職場がない、が最も高く約67%、ついで教育の17%がみられる。そのうち昭和生まれの年代が最も悩んでいることがうかがえる。

5) 近隣関係

近所とのつき合いは、どのような関係にあるか表17でみると、1)のように味噌、醤油など不足した場合、貸借するように深いつき合いが、この地域では70%と高率であった。これは近くに商店がないことや、何代かにわたっての近隣のつき合い、また通婚圏でものべたように、部落内婚もしくは、近くの村落との婚姻が多く、葬礼の時の互助組織も、この親族組織で行なわれているという背景は、みすごすことの出来ない重要な点と考察する。

6) 耐久消費財

24種の耐久消費財について調査を行なったが、そのうち、統計年鑑に対応できる品種を図9に示した。その結果、扇風機、石油ストーブと電子レンジがやや高く、他はいずれも低率であった。平均

1戸当りの所有数は13.9種で、最も高率であるのはタンスの98.4%、電話の93%であった。そこで電子レンジの使用層についてみると、昭和年代が78.6%、大正年代21.4%で、明治年代には認められなかった。

また家族数をみると1～2名が28.5%、3～4人が42.8%、5～

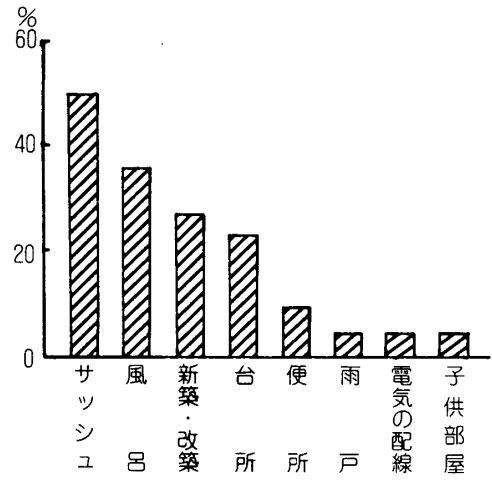


図8 家屋の修理改築部位の率

表16 時代別転居理由

単位=%

時代別	理由	日常不便	教育に困る	職場がない	転勤の話し
明治		—	—	8.3	—
大正		8.3	8.3	16.8	—
昭和Ⅰ・Ⅱ		—	8.3	41.7	8.3

表17 近隣関係

内容	割合 (%)
1) お互いにいたわり合い助けあって味噌醤油などの貸借をする	70.5
2) お互いに助けあう(物的ものはなし)	3.3
3) お互い立入った話しはしない	18.0
不明	8.2

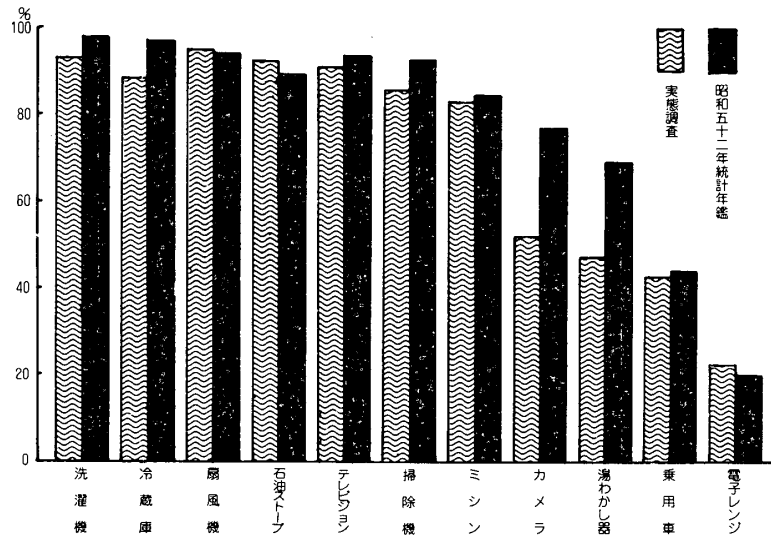


図9 耐久消費財の普及率

6人が28.5%で家族数によるよりも、年代の若い人の方が取り入れていることが分かった。

(7) 購入方法及び決定

5万円以上する耐久消費財を購入する場合、表18のように夫婦で話しあって決めるというのが最も多く、ついで家族全員で決めていた。購入方法は現金購入がほとんどである。『必要ない』が3.3%みられたのは老人世帯であった。

表18 耐久消費財の決定および購入のし方

単位=%

決 定 の し 方							購 入 の し 方			
夫 婦	家族全員	夫	妻	親	その他	不 明	現 金	月 賦	必要ない	不 明
55.8	16.4	9.8	9.8	1.6	3.3	3.3	98.4	14.8	3.3	6.6

V. 家庭運営

1) 後継者について

表5で示したように夫婦、単身者の割合が約25%もみられる地域で後継者についてみると、表19のように、イ)、ロ)の層は27.9%で、約1/3弱の人々は長く住むであろうが、ホ)、ヘ)、ト)などが1/3弱は現状いじであり、その中間ハ)、ニ)層は今後の社会状況により変化する可能性が大である。なかには将来富山村に息子は帰る予定はないが、家はそのままにして、いつまでも保存し、セカンドハウスとして、使用計画をしている家もみられる。

表19 後継者について

単位=%

イ) 後継者はい る	ロ) 今他産業 に在るが、 いずれここ に帰る	ハ) 子が小さい のでわから ない	ニ) 考えていな い	ホ) この土地に こない	ヘ) 子の所にい く	ト) 1代で終り	不 明
18.0	9.9	26.2	9.9	24.7	4.9	1.6	4.9
27.9		36.1		31.2			4.9

2) 主婦の財産の有無とその割合

主婦の財産の有無をみると、『有り』が31.2%でその内訳は図10に示した。家が最も高く、1人当たり1.8種の名義がつけられている。

次に夫の財産を1とみなし妻の割合と年代別の相関でみると、表20のようである。取得平均は48%であり、次に年代別人数に対する取得者率をみると明治年代は最も多く50%で、そのうち75%は単身者である。年代が若くなるに従い率が低いが、将来増加することを望むものである。

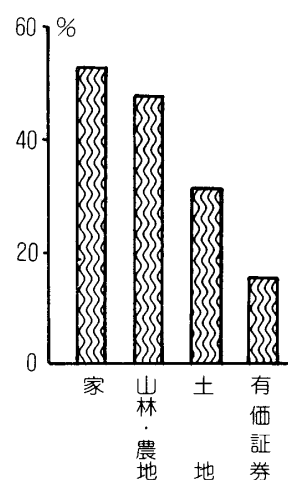


図10 主婦の財産の種類と割合

表20 夫を1とした年代別妻の財産割合

単位=%

区別	割合	0.1	0.3	0.5	同 等	1以上	全 て	取得者率
明 治	—	—	—	5.3	—	5.3	5.3	50.0
大 正	10.5	10.5	10.5	5.3	5.3	5.3	—	33.3
昭和I・II	20.9	10.5	10.5	5.3	—	—	—	26.5

3) 遺言状について

遺言状の有無については、有りはわずか1.6%で、これは寡婦の場合で、これは書いてあったの方に入る。書いてない人々については、イ)書いてほしい、ロ)書いてほしくない、ハ)どちらでもよい、ニ)わからないの問いに対して、イ)を望んだ人は8.3%で、大正、昭和年代の人々であった。ロ)の否定したのは3.3%であり、ハ)は18.3%、ニ)の51.7%は今後の財産管理の方法により変るのでないかと推察する。

4) 収入の方途

もし働けなくなった場合どのような計画が立てられているか、その方途についてみると、表21のように年金、恩給で暮したい人が大半をしめ、そのうち46%は年金、恩給だけで計画を立てていた。そ

表 21 収入の方途

	年金・恩給	息子・娘と同居	農 村 収 入	子供の仕送り	不 明
%	57.4	36.0	9.8	8.2	4.9

表 22 国民年金

福 祉 年 金	福祉年金給付数………30件	処 出 年 金	被保険者数………88件
	月平均額………13,725円		受給率………29.5%
			月平均額………16,019円

昭和52年、愛知県統計年鑑より算出

ここで表22に示したように富山村の国民年金の現状をみると、老齢福祉年金で月13,725円、通算老齢年金は、月16,019円であり、こうした低額ではたして暮してゆけるのであろうか。

今回富山村での消費支出費については、調査を行なわなかったが、推察するにやや不足するのではないか。その場合収入を得るための計画が必要であると考えられる。

Ⅲ. 健康面

1) 検 診

健康診断は年1回実施されている。93.5%と受診率は高く、受けない4.9%、きらいで受けないが1.6%であった。このように高率であるのは、先にもふれたように全村の人々が集合しやすいこと、日常の医療は月曜日と金曜日の半日ずつ医師が本村に診療に来村するのみで、他日は無医村になるため、特に村民は健康に注意を払っているためと思われる。

2) 健康について

現在健康かどうかをみると、余り健康でない、病気がちが34.4%であった。表23のように内科が最も高く、次いで歯科の順であった。年代別の受診率をみると明治時代の83.3%、ついで大正、昭和年代へと受診率は低くなっている。これは当然の結果であると考えられる。そこで診療には水窪町とか遠くは名古屋の親戚の家から通院して治療し、良くなって村に帰ってくるという現状である。

表23 診療科目別時代別割合

単位=%

時代別	科別	内科	外科	歯科	精神科	皮膚科	整形外科	眼科	受診率
明治	治	3.7	—	—	3.7	3.7	3.7	3.7	83.3
大正	正	11.1	7.4	14.9	11.1	—	—	—	38.1
昭和I・II		22.2	3.7	11.1	—	—	—	—	23.5

Ⅶ. 生活環境

1) 購入地域

村内には肉屋、魚屋は一軒もなく食料品店としての店舗はあり、そこでパック詰のものを購入することになる。表24にしめたように村内では菓子類が最も多く購入されている。

右表では、行商と地区を表わしてあるが、野菜、家具など豊橋方面からトラックで売りに来るようになり、国鉄で買いに行かなくてもよくなったといわれている。この傾向は東京都檜原村の過疎地²⁾にもみられる新しい傾向である。水窪町へは、多い人は毎日のように出掛け、近所の人々に買って来たものを見せるなど、情報交換がなされている。

表24 種類別地域別購入先

単位=%

	村 内	水窪町	行 商	天竜・平岡	豊橋・浜松	豊 川
肉 類	57.8	42.2	—	—	—	—
魚 貝 類	53.2	46.8	—	—	—	—
野 菜 類	58.4	33.3	8.3	—	—	—
菓 子 類	70.5	29.5	—	—	—	—
家 具	—	80.8	3.8	9.7	3.8	1.9
鍋 か ま 類	—	91.6	—	4.2	4.2	—
ふとん・カーテン類	—	91.6	2.1	4.2	2.1	—
日 用 雑 貨	62.7	35.5	—	2.0	—	—
%	40.3	54.4	1.8	2.2	1.1	0.2

2) 交 通

過疎地域は自動車の保有率が高いといわれているが、本村は、平地は道路の県道だけで、家々への道は狭く坂道であり、家の庭まで車を乗り入れる家は少なく、表25にみられるように自家用の自動車は約49%の保有がみられ、日常の行動には徒歩62.2%、自動車27.8%、自転車16.4%、バイク1.6%であった。

表25 種類別登録自動車数

51年3月

種 類 別 数	普通貨物 2	小型4輪 貨物 9	普通乗合 1	普通乗用 1	小型4輪 乗用 36	特殊用人 1
全世帯に対する割合	13.7		48.7%			

昭和52年、愛知県統計年鑑より作成。全て自家用として登録。

表26 家族構成別くらしの意識

単位=%

	イ) やつと寝ているが、このままでは暮せない	ロ) 食べるのに精一ぱい	ハ) 食べるのに心配は入らない	ニ) ぜいたくなことはない	ホ) 一般に比べ恵まれている	不 明
夫 婦	—	—	16.7	66.6	16.7	—
夫 婦 + 子	—	27.3	45.4	27.3	—	—
片 親 + 子	—	—	33.3	66.7	—	—
単 身 者	133.	26.7	6.7	33.3	67.	13.3
親 + 夫 婦 + 子	—	6.2	50.0	25.6	12.6	6.2
親 + 夫 婦 + 子 + 他	—	—	—	100.0	—	—
割 合	3.3	13.1	27.9	42.6	8.2	4.4

3) 暮らしの意識

表26の質問項目はそれぞれの価値観・欲求は人により個人差があるが家族構成別にみると、単身者は、イ)、ロ)が40%と他の層に比べ高率である。全体にみるとニ)が最も高く42.6%で、大体満足した生活を送っているものと思われる。明治生れの人で「若い頃の老人の生活と比べ、今の自分自身を考えると本当に現在は年金までいただいて、幸せな生活を過している」と話して下さったのが印象に残っている。

4) 婦人の教養

余暇時間の有無について図11に示すように「ないが、最も多く、次いで「ある」であった。年代別にみると昭和が67%大正33%で明治の人は希望しなかった。

かつて明治生まれの人々は家族員の衣服の調達に織る、裁つ、縫うことが必要であり、食事も火を起して薪による炊事であった。しかし現在の日常生活はスイッチをひねれば火がつき、衣服は既製品というように電化し、社会化してきた現在に満足しているとも受けとめられる。一方昭和、大正の人々は最も活躍の最盛期であり、家族の中心として存在しており、忙しく余暇時間を是非ほしいという積極的な態度が推察される。

つぎに「ある率」についてみるとテレビをみるが最も多く、次いで読書であった。そこで読書についてみると、図12に示すように、週刊紙が最も多く、ついで中間書であった。この中間書は同一の人が多く読んでおり、最大7冊、1人平均2.0冊であった。その年代層をみると昭和が最も多く75%、大正の15%、明治の10%であった。高齢になる程活字を読むことは苦痛になるためか低率を示すものと思われる。

5) その他

簡易水道の普及率は91%で水道の使用料がないので、どの家でも水は開放しになっており、しかも、その水は非常においしい水であった。

電話の普及率も高く83%である。ゴミ焼却炉は各集落に1か所ずつ設置され、各自で出たゴミを、しよいこなどにしよって、村はずれにある焼却所で焼却する方法が取られている。

テレビジョンの普及・カラー契約の合計率をみると、愛知県の市部で85.09%、郡部で92.3

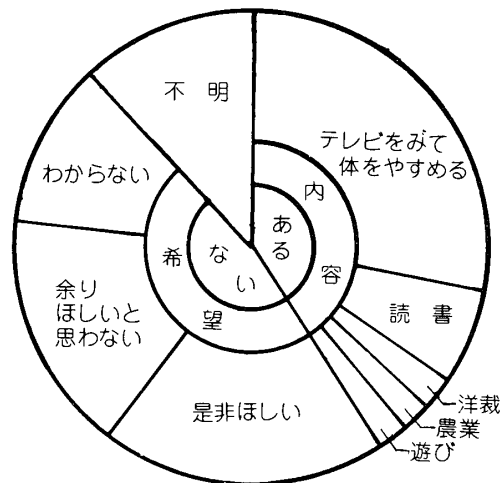


図11 余暇時間

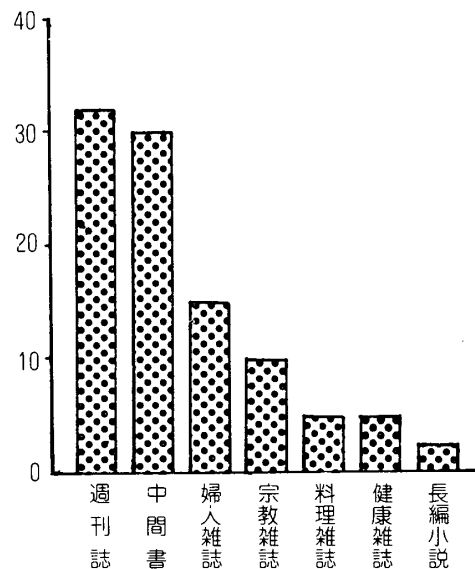


図12 一ヶ月の読書量

%、富山村は115.0%で県内一の普及率をしめしている。

女性の場合髪の手入れには苦心すると思われるが、そのための美容院など一軒もなく、どのような状況かを表27でみると、`必要なとき、が最も多く、 $\frac{3}{4}$ 割をしめている。これは子供達が帰郷する盆前と正月前に行くといわれており、丁度調査時は盆の終わった所で、皆きれいな髪型であった。

表27 美容院への回数の割合

	月2回	月1回	年4回	必要の時	全く行かない	不明
%	1.6	11.5	4.9	73.8	6.6	1.6

要 約

1. 生活環境の物的面すなわち簡易水道、電話設置、ゴミ焼却、道路の舗装、集団検診など高率をしめ、自然環境は良く空気は澄み、公害のない、静かな町で快適な暮しがなされている。
2. 単身者世帯は、全国に比べ高率であった。彼女らは他の世帯に比べ生活は地味である。
3. 児童数の減少は著しく、昭和60年には10名前後になると推測される。
4. 現状では高年層の人達は満足し、若い世代は職場の問題、教育について悩んでいる。
5. 持家率が高い。
6. 近隣関係は物品の貸借まで行なっているのが約70%と高率である。
7. 不意の発病に対する不安を解消するためには、24時間診療の可能な病院の建設によって、周辺市町村と共に設備を充実すれば過疎化は緩和するのではないか。
8. 国鉄飯田線の回数の増便によって、時間の短縮が計られれば、生活の利便性が増大する。

本研究に当たり、富山村村長林宇市氏はじめ富山村役場および、調査にご協力下さった村民の方々に深くお礼申し上げます。

参 考 文 献

- 1) 青山道夫：ジュリスト増刊現代の家族，p.58（1978）
- 2) 湯沢雅彦：コミュニティ，p. 70（1978）
- 3) 天竜奥三河地域総合調査報告書，（1973）
- 4) 総理府統計局：市町村別人口，（1973）
- 5) 愛知県統計年鑑：愛知県，（1978）